

電気科学館80周年の企画展

今年は電気科学館80周年

今から80年前の1937（昭和12）年、大阪の四ツ橋に大阪市立電気科学館がオープンしました。今の市立科学館の前身となる施設です。今年は大阪の科学館80周年ということで、3月からは科学館アトリウムで電気科学館の写真や歴史年表を紹介したパネル展を開催しました。

そして6月13日からは、企画展「一大阪市立電気科学館開館80周年記念—電気科学館とプラネタリウムの黎明期」を開催します。資料を通じて、電気科学館の歴史をはじめ、日本にプラネタリウムが導入された初期の様子を紹介します。

電気科学館って、どんなところ？

大阪市立電気科学館は、電気に関する原理や応用について紹介する事をテーマとしていました。電気に関する体験型展示や実物資料を中心にした展示構成を特徴とし、日本最初の科学館といわれています。また、東洋初のプラネタリウムが設置され、昼間でも本物そっくりの星空を見ることができると話題になりました。あっという間に人気施設となった電気科学館は、戦争による被害により一時期活動を休止したものの、展示を更新しながら1989（平成元）年の閉館・移転まで、多くの市民に親しまれました。

プラネタリウム「天象館」のお宝紹介

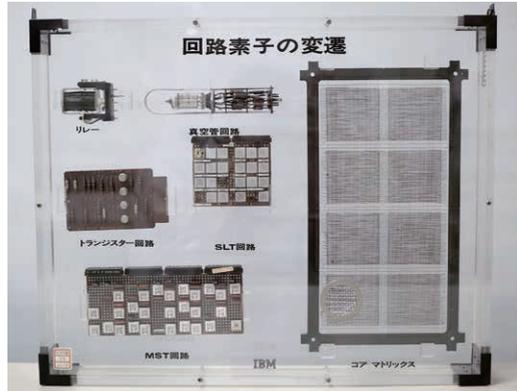
電気科学館6階のプラネタリウムホールは「天象館」と呼ばれました。企画展では、プラネタリウム投影で使用する星座の絵を映し出す機械や、星座絵の原板（写真2）など、開館当時から使われていた実物が登場します。さらにプラネタリウムで使われていた電球や、いろいろなパンフレット、スタッフ向けに作られた解説書「遊星儀詳解」なども展示予定です。ちなみに、電気科学館で活躍した日本初のプラネタリウムであるカール・ツァイスⅡ型機は、現在では科学館地下1階で展示中ですので、併せてご覧になって下さい。



写真1：開館当時のパンフレット



(左)写真2:ツァイスプラネタリウムの星座絵。オリオン座とおうし座。
(右)写真3:電気科学館の展示「回路素子の変遷」



電気に関する展示場「電気館」のお宝紹介

電気科学館の2階から5階は「電気館」という名の展示場です。電気に関する原理や応用、照明をはじめ、体験型展示が数多くなっていました。企画展では、電気館のパンフレットやスタッフ用解説書などを紹介します。いま科学館で展示中の「回転たまご」や「人力発電」のほか、X線装置など、「80年前からあったんだ!」と感じる展示も数多くあって、興味深い感じがします。その他、電気科学館で展示されていた回路素子の展示(写真3)やモーターの模型など、30年ぶりに公開する資料も注目です。

日本のプラネタリウムの歴史を知る新資料も展示

またこの企画展では、1938(昭和13)年にオープンしたプラネタリウム館「東日天文館」の資料も紹介します。

電気科学館開館の翌年に、東京有楽町にオープンした東日天文館は、わが国二番目のプラネタリウム館です。大阪と同じカール・ツァイスⅡ型機が設置され、人気を博しましたが、1945(昭和20)年の空襲で焼失したため、同館の資料は僅かしか残っていません。そんな中、近年発見された同館の開館時のパンフレットや冊子などを展示し、日本のプラネタリウム館の初期の活動の様子をご覧ください。

本企画展を通じて、懐かしい科学館の雰囲気味わっていただくと同時に、基本原理の解説などは、現代の科学館と変わらないところも多いことを感じていただければと思います。

嘉数 次人(科学館学芸員)